

伊勢・三河湾貧酸素情報 (R1-1号)

令和元年6月6日

愛知県水産試験場 漁場環境研究部

はじめに

今年度も6月から10月まで、伊勢・三河湾の貧酸素水塊の発達状況について、現況と予測の情報を提供します。

データは、三重県水産研究所が「あさま」で実施する浅海定線調査、愛知県水産試験場が「海幸丸」、「へいわ」で実施する環境調査等の結果を利用し、月2、3回程度情報提供する予定です。

情報は速報値であるため、後日、補正等で修正される場合もありますので、ご承知おきください。

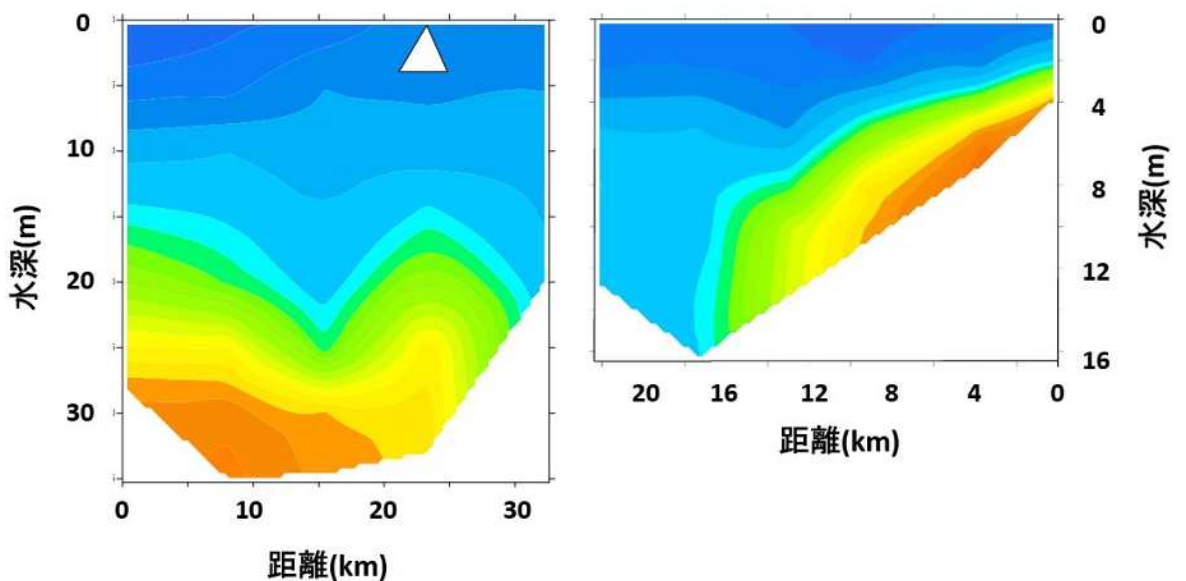
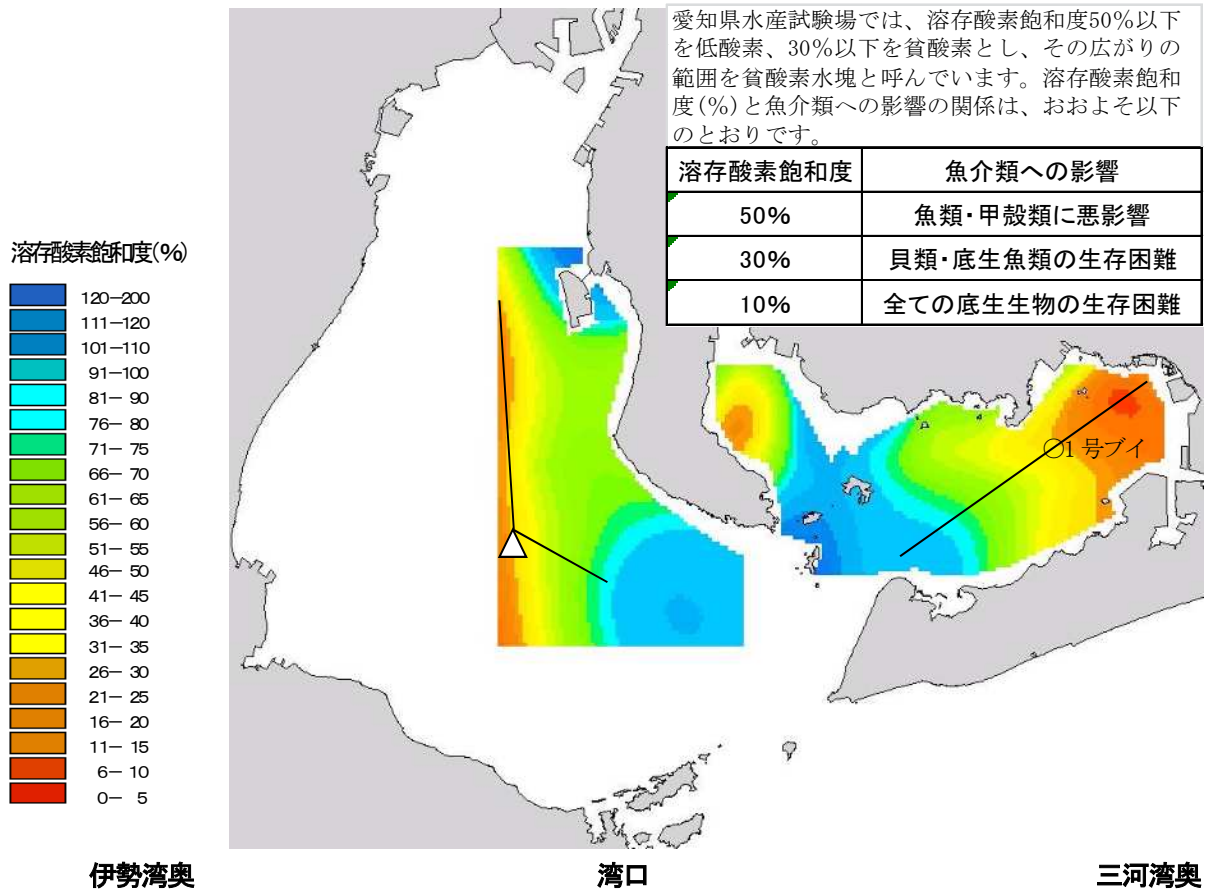


図1 伊勢湾(6月3日)・三河湾(6月4、5日)底層の溶存酸素飽和度の分布(上図)及び上図直線部分の鉛直分布(下図)(愛知県「へいわ」調査)

伊勢湾

6月3日の調査結果を図1に示しました。伊勢湾の湾央部で貧酸素水塊が確認されました。

今後は梅雨に向けて、表層の水溫上昇と塩分低下にともなう成層の発達により、下層で貧酸素水塊が拡大すると思われます。

表1 調査時の水溫・塩分

	水溫(°C)	塩分
表層	20.6~22.2	28.2~30.9
底層	15.1~21.0	31.0~34.1

三河湾

6月4、5日の調査結果を図1に示しました。渥美湾では湾奥部で、知多湾では美浜町沖で貧酸素水塊が確認されました。

三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ(蒲郡沖)のデータをみると、海底から4mの範囲にかけて溶存酸素飽和度が50%以下で推移している様子が観測されています(図2)。

今後は梅雨に向けて、表層の水溫上昇と塩分低下にともなう成層の発達により、下層で貧酸素水塊が拡大すると思われます。

表2 調査時の水溫・塩分

	水溫(°C)	塩分
表層	21.6~24.2	28.2~30.8
底層	19.1~20.9	31.0~33.2

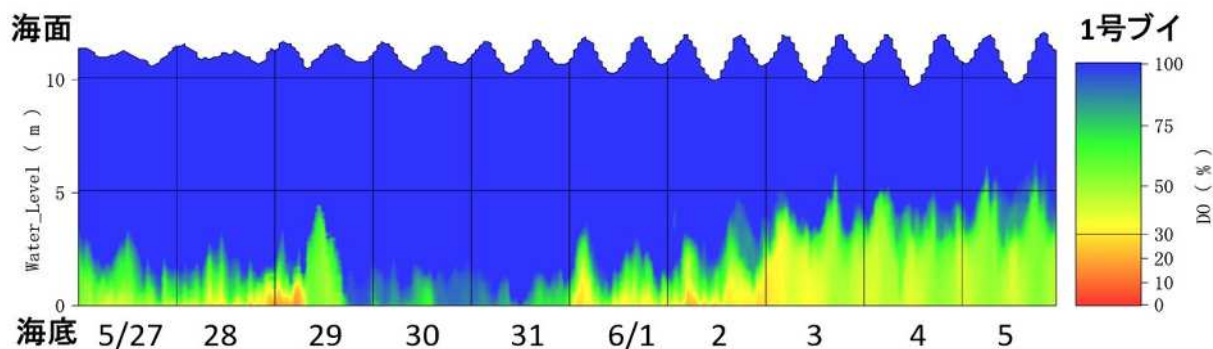


図2 溶存酸素飽和度(DO)の経時変化(三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ)

参考

前年同期の両湾底層の溶存酸素状況(図3)

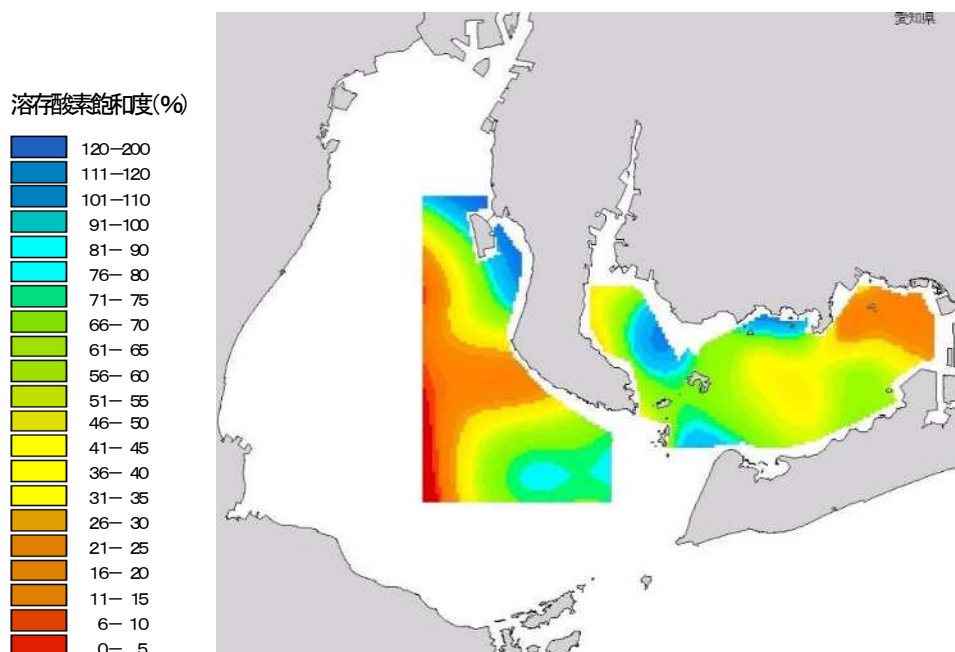


図3 平成30年6月5日(伊勢湾)、6月1、4日(三河湾)